

20190705 マタタビについて

三谷に向かう山肌にはマタタビの葉が随所に見られます。今花も盛りでかぐわしい香りを放っています。テンノの出口に向かう曲がり角では花も実も手に取って実感できます。そこでおなじみのマタタビについて整理してみました。

1. マタタビ (マタタビ科) 落葉つる性植物 アイヌ語のマタタンプからの名前。漢字では木天夢と書く。
2. 山野の林縁や沢筋で成長する。ほぼ全国定期に分布する。
3. 葉っぱは互生。卵円形で割と薄い。小さな鋸歯があり先がとがる。
4. 雌雄異株。雄花の付く雄株 (1~3個) と、雌花と両性化 (1個) の咲く雌株がある。
5. 花期は6-7月。白い花。葉のわきに下向きに咲く。果期は10月。食用になる。
6. 花期に上部の葉が白くなる。全面であったり、半分であったり、先端だけだったりと変化がある。
このため遠くからでもよく目立つ。
7. 葉が白くなるのは、花粉を媒介してくれる昆虫に対して目立つように、花を大きく見せているといわれ、花期が終わると、葉は再び緑色に戻る。
葉が白くなるのは色素ではなく、葉にわずかに空気の層ができるからで、波が白く見えるのと同じ原理である。(c f. ドクダミ科のハンゲショウも同じ)
8. マタタビバエが産卵すると、虫こぶができる。
9. ネコ科の動物が好み、枝葉や果実を与えると、神経中枢に作用して酩酊状態になる。



マタタビの葉 白化



マタタビの雄花



マタタビの雌花 (中央)
花弁がなく、ガクが5裂



マタタビの果実



マタタビの虫こぶ